



第72号

ほっとつと

発行(R6年12月)
公益社団法人
高知県看護協会
保健師職能委員会
〒780-8066
高知市朝倉己825-5
TEL 088-844-0678
FAX 088-844-0053

地区別保健師職能委員長会に参加してきました(報告)

この会は、毎年10月に中四国の保健師職能委員長が集まって、様々な議題について意見交換を行う機会になっています。

今年は広島県で開催されました。会場はなんと、G7サミットが行われたグランドプリンスホテル広島！参加者からの各地の銘菓の差し入れを前に食べたいのを我慢しながら各県の取り組みなど、活発な意見交換となりました。

▶自治体保健師と地区の看護職の連携による取組推進策については、地域の看護職と自治体保健師の連携協働による地域全体の健康・療養支援と仕組みづくりについて意見が交わされました。

そこでは、職域との連携が不可欠である事や、包括ケア体制をつなぐリーダー的な存在が必要ではないかという意見が印象的でした。重症化予防を効果的に進めていくためには、保健師も腹を据えて医療や職域にも目を向けていく必要があるように感じました。

▶保健師活動指針の改正については、政府の動きなども影響してか、進捗が遅れていますが、日看協からは、昨年度に実施した意見集約の結果や地域保健関係者へのヒアリングをする中で、地域をしっかりと見る視点は今後も大事にしながらも、小規模自治体が増えていく傾向にある中で地区担当制にこだわることなく、地域の実態に合わせた保健師の活動体制の整備という観点を持つ必要性も議論されていることなどが報告されました。

▶保健師の「人材確保・定着」と「定着のための人材育成」については、特に統括保健師の役割として「どういう人材が必要なのかだからどういう人材を雇用してほしいのか」を判断し人材管理をしていくことが求められるそれを人事担当職員としっかり共有し、人材確保をしていくことが重要ではないか。そういった視点は災害時にも活かせる。どういう人材に応援にきてもらいたいのかといった判断として受援のマネジメント機能としてもつながっていくのではないかと意見として出されました。

保健師は、日々業務に追われる毎日ですが、今後は益々他職種との連携が求められ、重症化予防など保健師が地域で担うべき役割に直結する課題も医療や職域との連携をしていく時代に動いています。看護協会はそういった看護職との出会いができる機会が持てるのが大きな魅力だと思います。

みなさん、是非仲間になって一緒に活動してみませんか。

保健師職能委員長 窪田純子



保健師職能委員会 …活動を振り返って… 昭和36年

～高知県保健師の歌をご存じですか？～ 常任理事 中島 信恵

この歌は、保健婦制度制定20周年を記念して、当時の日本看護協会・保健婦部会高知県支部によって作られました。歌詞を一般募集し、98もの応募作品から審査で選ばれました。歌詞は3番まであります。支部主催の20周年記念式典(昭和36年11月10日)で、170人の保健師の感激の中、盛大に披露されました。



風情バンドの伴奏で「高知県保健師の歌」の発表

高知県保健師の歌

作詞 山本佳樹
作曲 武政英策

よせるくろ しーお へいわのさと に あいのひか
り お ともけも の みらえち んだ
あの一ひか ら ちねにさほうーが ちえてい
る いつでも いつでも もえてい る
あー あ こうちけ ん はけんふ
われ 5

新任期保健師交流会を開催しました！



10月19日(土)に、採用4年目までの新任期の方を対象にした交流会を開催しました。これは、新任期保健師の交流を深め、今後の相互の学びの機会につなげることを目的に、年1回実施しています。高知・幡多の2つの会場で実施し、今年度は、初めて3名の産業保健師の参加があり、他は市町村5名、福祉保健所6名の合計14名の方の参加がありました。

高知会場

仁淀川町地域包括支援センター 掛水 房美

高知会場は、産業保健師3名を含めた9名で、2グループに分かれて交流を行いました。意見交換では、「私のリフレッシュ方法」「働いてみて嬉しかったこと、良かったこと」の2つのテーマを選択しました。働いてみて嬉しかったこと、良かったことは、「名前を覚えてもらったり、私に相談に来てくれる」「話を聞いてもらえてよかったなど感謝されること」など、保健師の醍醐味ともいえる住民や社員との触れ合いの中で実感できることや、「成長を感じた時」や「上司に“やるやる”と言われた時」など自信につながる瞬間が聞かれました。また、看護師から転職した方からは、「ワークライフバランスが整った」「早く帰れる！」などの意見も聞かれました。

今回、普段なかなか関わることの少ない産業保健師と交流する機会ができ、交流会が終わってからも、名刺交換をしたり、終始和やかな雰囲気を楽しみました。



幡多会場

幡多福祉保健所健康障害課 濱田 梓

幡多会場では、ハロウィンに彩った会場で、参加者5名と一緒にケーキやお菓子に囲まれながら和やかな雰囲気での交流がスタートしました。会場ごとの意見交換では、「保健師になりたいと思った理由」、「こんな保健師になりたい(理想像)」の2つのテーマで意見交換を行いました。保健師になりたいと思った理由では、看護師は向いていないと思ったから…など、学生時代に経験した実習での厳しさを思い出しながらやや後ろ向きな話も出ましたが、一次予防に興味があったから、実習をとおして保健師に興味を持ったからといった前向きな意見もありました。理想の保健師像については、まだ定まっていない方も多く、これから色々な先輩保健師と一緒に仕事をしていく中で見つけていきたいという話になりました。



先輩保健師から新任期の皆さんへのメッセージ.. ~2つの会場をつないで~

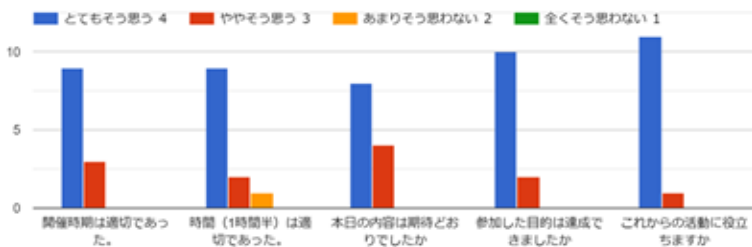
高知会場から、仁淀川町役場健康福祉課 松本夕さん(3年目)から、受診勧奨をしたが受診を希望せず早世されたケースとの関りを通して、好きな煙草やお酒を飲みながら自宅で生活を送り、その人にとっては幸せだったのか、健やかな生活とは何なのだろうかと考えるきっかけになったと発表があり、保健師が望む生活と住民が望む生活が違う場面はどうしたらよいか、先輩保健師も交えて話し合う場面もありました。

幡多会場からは、幡多福祉保健所 明神 未来さん(7年目)から「になりたい自分像を持つために」をテーマにメッセージをいただきました。メッセージの中には「どんな保健師になりたいか」を考えるヒントがたくさん盛り込まれていて、まだ理想像が見つかっていないと話していたみなさんの表情が明るくなったような気がしました。

「先輩も新人の頃は同じように悩んでいた時期があったんだ…」という率直な感想も聞かれ、同世代だけでなく、先輩保健師とも交流できる機会も大切だなと感じたことでした。目標となる人を持つこと、この人のこの部分を見習うなど、良いところを見つけて、理想の保健師像目指して頑張りましょうね！！

参加者のアンケートより

Ⅱ-1 交流会の満足度等



【感想や意見をお聞かせください】

- 新任期保健師同士の交流の機会となっただけでなく、保健師を目指した理由等を意見交換することで、改めて自身を振り返ることができた。
- 先輩保健師からのお話をとおして、これからどのような保健師を目指していくかの考え方がイメージできました。
- 普段なかなか交流することのない産業保健師さんとも話すことができ、とても楽しい時間でした。
- もう少し各会場で話す時間が長くて良かったのかなと感じました。
- 業務で職域のメンタルヘルス対策を行っているので職域の方と情報交換できる時間があればありがたかったです。
- 他の地域の保健師や先輩保健師の話聞き、仕事への意欲が増しました。



第4弾 「隣の保健師さん！」 地域で働いている保健師さんのお仕事を紹介します。

ヤンマーアグリ(株) 人事総務部労務部 (高知) 山崎 真由香

私は今、香美市にあるヤンマーアグリ株式会社に保健師として勤務しています。ヤンマーアグリ株式会社は農業機械を製造している会社です。事務所の隣に工場があり、派遣社員の方も合わせると毎日約400名の方が働いています。私の日々の業務は、この400名の社員さんが毎日安全に、そして心身ともに健康に働いてもらうためにサポートすることです。そのために労働衛生3管理ないし5管理を軸に活動を行っています。

私は看護の大学を卒業後、大学病院の小児科病棟で看護師として働いていました。その後、縁あって保健師となり、産業保健師としては6年目になりました。産業保健師として勤務を始めた頃は、『会社の仕組み』に驚くことが多く、病院との違いに戸惑い、会社内で保健師として活動って…どうしたらいいの？と不安に思う気持ちがとても強かったですが、私が勤務当初より積極的に行っていることは会社内の色々な人と話すこと。メールや電話がありますが、やはり直接会って様々な話をする。信頼関係を築くこと。コミュニケーションを大事にしています。コミュニケーションを大事にしていく中で、社員さんから「ありがとう」「また話しに来てかまん？」と言われることが何よりの活力になっています。

まだまだ6年目で一人前と呼ばれるには程遠いですが、自分自身の息抜きも挟みながら、少しずつ自分のなりたい産業保健師に近づけるようこれからも頑張っていきます。



新「ヤン坊マー坊」



健康支援センター



産業保健活動の振り返り

市町村保健衛生職員協議会保健師部会全体研修会 「災害に備えた保健活動 平時から庁内で推進していくために」

11月14日に上記の研修会が開催され、国立保健医療科学院 健康危機管理研究部上席主任研究官、奥田博子先生の講演に参加しました。



1月1日に能登半島地震が起こり、また、4月17日には豊後水道地震が発生し特に高知県西部では震度6弱が観測され、巨大地震が起こるのではないかと緊張し不安に思ったのを思い出します。

奥田先生のこれまでの災害支援の経験や様々な角度からの講義を聞くことができ、平時からの災害対策、保健活動をしていかないといけないと強く感じる研修でした。

保健師の分散配置や業務分担がすすみ、横のつながりや人材育成など困難を感じるという声も聞かれます。

平時においても災害時においても住民の方の健康被害を最小にするための予防対策、保健活動を社会の変化における対策や取り組みの変化もふまえながら行っていきたいと感じました。

四万十市高齢者支援課 西内美和

人材育成ミーティングのご案内

テーマ「保健師の経験を成長につなぐ～保健師として何をどう伝えるのか～」

各現場で保健指導ミーティングの手法を活用した事例検討や事業の振り返り等の実践を振り返り、保健師として何をどう伝えていくのかをテーマに人材育成のあり方を学ぶ機会になります。中堅期及び管理期の保健師を対象にした人材育成ミーティングです。ぜひ参加しませんか。



日時: 令和7年2月11日(火) 祝日

場所: 看護協会会館

定員: 30名

詳細は、改めてチラシでご案内させていただきます。



高知県 かんごちゃん

高知県看護協会に入会しませんか



入会のお申込は
こちらから



(編集後記)

朝晩肌寒くなり、冬もそろそろ近づいてきたかを感じるこの頃です。気温の変化に翻弄されますが、みなさん体調には気をつけて過ごしましょう。

